

▶フン害で真っ白になった樹木
フン害による土壌の悪化は深刻な問題です。魚を食べるサギ類やカワウのフンは、酸性が強い
ため樹木が枯れてしまいます。



バードサンクチュアリの 維持管理と課題

平成24年、サギ類とカワウの個体数増加によるフン害と悪臭の問題が発生しました。バードサンクチュアリの環境を適正に維持管理していくためには、サンクチュアリの規模に応じた個体数の抑制を図る試みが必要です。

今年試験的に、繁殖期に入る前から樹林への防鳥テープの設置や、忌避剤の貼付などを行いました。さらにバードサンクチュアリオープン当初から制限していた社員の立ち入りを、定期的に人が出入りするように変更しました。こうすることで、適正な個体数を保つよう努めます。



▲フン害によって枯れた樹を伐採して、植樹会を開催しました。社内の呼びかけで集まった社員とその家族など約50名が参加しました。

また調査によって、樹林に囲まれた池の中では、アメリカザリガニやウシガエルなどの外来生物が確認されています。

森本さんは「今後は池の環境を改善して、在来種を中心とした生態系づくりを目指していきたい」と話してくれました。

今回、誌面に掲載されている野鳥や生き物の写真は、これまで社員の方が撮りためたものです。これらの写真からは、バードサンクチュア리를訪れる生き物たちを見守り続けてきた温かい視線を感じることができ、バードサンクチュアリの環境は維持されていくことでしょう。

街の中に緑を増やそう

一年を通してさまざまな野鳥が集まる「味の素バードサンクチュアリ」。ここで大切なのは四日市コンビナートの工業地帯のなかに、生き物が集まる緑地があるということです。工場周辺には、公園や神社などの緑地が点在しており、それぞれが野鳥にとってオアシスのような役割をしています。「味の素バードサンクチュアリ」もそのひとつです。

野鳥は一生を同じ場所で過ごす生き物ではありません。長距離の渡りをしたり、緑地と緑地を渡って移動したりしています。

例えば実のなる植物を植えれば、その実を食べに野鳥がやってきます。このように広い場所がなくても、庭やベランダなどのわたし

たちの身近にも野鳥を呼ぶことはできるのです。

こうして街の中に少しでも緑地が増えることで、野鳥や昆虫などが集まる環境をつくりだすことができます。いろいろな生き物が住める環境は、わたしたち人間にとってもよい環境だといえるのではないのでしょうか。

生き物の視点で街の中の環境を見直したとき、緑地のひとつひとつを結んでいき、小さな生き物も移動できる線「グリーンベルト」をつくっていくことが重要だといえます。

写真提供 味の素株式会社 東海事業所

地域で活動されている方の参考に!

野鳥などの生き物との共存についても考えるきっかけに!

参加費無料 スキルアップ講座

企業の取組から学ぶ ～バードサンクチュアリ見学会～

協力:味の素株式会社

平成26年
日時 **4月12日** 10:00~12:00

工場敷地内の「バードサンクチュアリ」の取組や課題について、お話を伺います。そして、サンクチュアリのようすを見せていただきながら野鳥を観察します。

会場 **味の素株式会社 東海事業所**
(四日市市日永1730番地)

対象 ◇環境学習指導者養成講座の受講者
◇自然環境の保全や生物多様性の保全に関心のある方

募集人数 **20名**(18歳以上の方)
※申込多数の場合は抽選。その際、三重県在住の方を優先

サギやカワウの子育ての
ようすが観察できるかも!

締切
3月15日

お問合せ・お申込み
環境学習情報センターまで

